

事務所だより 第 4 号

益田教育事務所

手品と学び

学校教育スタッフ 指導主事 村上 剛

ある晩の出来事・・・中学 2 年生の息子が、部屋の隅でなにやらゴソゴソしていると思ったら、トランプを持ってきて「1 枚引いて。」と言う。言われたとおりに 1 枚引くと、「マークと数字を覚えたら元に戻して。」と言う。トランプの山に戻すと、彼は何回か普通にシャッフルして、指をパチンと鳴らし山の一番上のカードをめくると、なんと、私が引いたカードがあらわれたのである！あまりの華麗な出来事に「うわあ～、すごいね。」と感心すると、得意げに今度は妻や娘に披露し始めた・・・。

息子に聴くと、他人に教わったのではなく、姉のスマホで動画のサイトを見て学んだという。『手品 ネットバレ』とかで検索するとすぐにわかるらしい。もちろん、1 回見たくらいでは上手にできないのだが、普段は宿題を嫌々するような子なのに、できるようになるまで何度も練習をして、家族に披露するレベルになったようだ。

「くだらないことばかり覚えて…」という妻を横目に、私は複雑な感情が芽生えてくるのを感じた。

確かに学校の授業とは関係ないことかもしれないが、息子は自分で学びを得ようと努力し、それを成し遂げた。すごいことだ。しかもそれはネット上の映像の見知らぬシロウト（おそらくプロではないと思われる…）から学んでいる。現代のネット社会の利点を生かした学び方に愕然とした。

でも、待てよ・・・これで学びが得られるのだとしたら、教員はいらないのではないか。実際に大手予備校では、かねてから遠隔授業が行われている。さらに最近では、塾や教材会社でも有料無料を問わず、講師による講義がネットで配信されている。学校でなくても学べる環境が思いのほか増えている実態を目の当たりにし、別な意味で愕然とした。

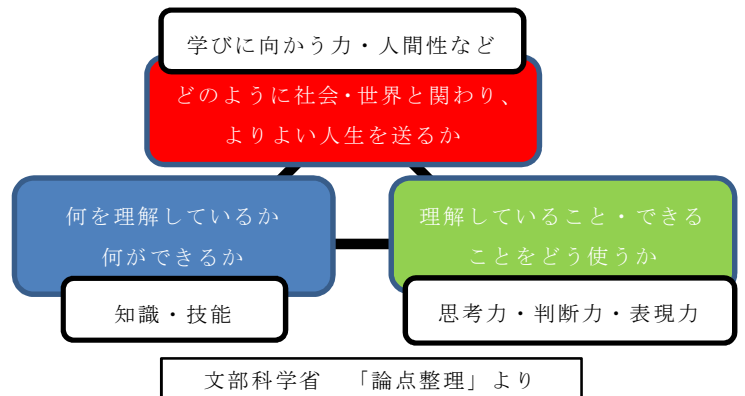
『こうした状況で、学校での学びはどうあるべきなのだろうか？』

この問いへの答えの一つが、次期学習指導要領のキーワードである「主体的、対話的で深い学びの実現」（アクティブラーニングの視点からの授業改善）であろう。

確かに、一方的な知識や技能の伝達においては、「いつでも、どこでも、何回でも、そして映像で」というネット配信の強みにかなわない面がある。しかし、学校教育が目指すのは、変化の激しい社会の中でどのようによりよい人生を送るかという、「学びに向かう力・人間性」を涵養し、「知識・技能」を生かして未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を育成することである。そのためには、世の中や他人との関わりを無視することはできず、そこに学校で学ぶ意義がある。

そして、こうした時代だからこそ、教員の資質・能力が問われている。不断の授業改善が大切になっている。

ちなみに、息子は自分で手品のネタをいくつか考えていた。感心していたのだが、あっという間に飽きてしまった。継続が力なのに・・・。



リオオリンピック・パラリンピック

津和野町教育委員会 派遣指導主事 俵 裕樹

ブラジルのリオデジャネイロにて、8月にはオリンピック、9月にはパラリンピックが盛大に開催されました。オリンピック・パラリンピック共に、日本選手の活躍には心が踊り、日々睡眠不足になっていたのは私だけではないと思います。今回のオリンピックのメダル獲得数は史上最多の41個、パラリンピックは24個と、メダル数からも日本選手の頑張りや競技力の向上が伺えます。

オリンピック・パラリンピックを見ていて、「体を動かしてみようかなあ」と思った人は少なくないのでは。実は私もその一人です。30代半ばまではある競技の現役選手、それ以降は地域の小学生の指導者として今に至っています。昔は体を動かすことが好きで、現在も運動に関わる機会が多いのですが、最近では体をあまり動かしていません。指導も口優先。おまけに学校現場を離れると、1日の歩数が激減。比例するかのごとくウエストが増加。そんな私に運動への誘いをしてくれたのが、今回のオリンピック・パラリンピックです。

スポーツ庁は、「オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会における日本代表選手の活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動を与えるものであり、我が国の国際競技力向上に向けた取組を進めていくことが重要です。

(中略) スポーツには、人間の可能性の極限を追求するという側面があります。このような競技スポーツは、自らの能力と技術の限界に挑む活動であると同時に、その優れた成果は、人々のスポーツへの関心を高め、スポーツ全体の振興に資するとともに、活力ある健全な社会の形成にも貢献するものといえます。」とホームページに記しています。確かに今回のオリンピック・パラリンピックを通して「誇り」「喜び」「夢」「感動」を選手たちからもらいました。また、「スポーツへの関心」が高まったから『体を動かしてみようかなあ』と思ったのでしょうか。

近年、運動をする子どもとしない子どもの二極化が見られることや、それによって体力レベルにも差が生じていることが明らかになっています。学校体育のより一層の充実は不可欠ですが、家庭・地域での運動機会が増えることも大切です。残念ながら、私が指導している競技においては、年々子どもたちが減少しています。その他の競技も同様だと聞いています。少子化の影響は少なからずありますが、子どもたちの運動離れが大きな原因のひとつだと思います。

4年後はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。学校体育のさらなる充実を図る絶好の機会です。代表を目指して(メダルを目指して)頑張る選手の姿は、子どもたちの運動へのレディネスを必ずや高めます。そこに先生方のちょっとした策や支援が加われば、運動への関心がますます高まり、体を動かすことが好きな子どもたちが増えていくことでしょう。そして、学校から家庭・地域へ波及していくことを願っています。

体を動かしやすい季節ですね。さて次の練習日には、口数を抑えて、子どもたちと一緒に汗でも流してみましようか！

